

平成28年度 東京都立白鷗高等学校及び附属中学校経営報告

校長 善本 久子

今年度は、グローバル人材の育成という大きなミッションを得て、30年度からの国際的な教育環境の整備の本格実施に向けた準備に邁進した。新しい「白鷗」のブランドイメージの確立を図るために、校内PT、関係機関との連携により、具体的な計画を立案すると共に、英語教育の充実等、先行実施の可能な内容は今年度から実践し、中学3年生の英検取得等に素晴らしい結果を出すことができた。

組織の課題として、個々の教職員は努力を重ねているが学年中心主義やたこつぼ化による課題共有及び改善の取組の不十分さがあり、校内研修の実施等により情報共有を進め、一定の成果があった。生徒の進路実現においては、大学入試センター試験で成果を挙げたが、難関国公立大及び難関私大で目標を達成することができなかった。

体罰根絶を始め服務事故を起こさないとの強い姿勢で臨み注意喚起を継続して行い、服務事故を発生させなかった。いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組み、小さな芽に組織的に対応することで、大きな課題に発展することはなかった。

次年度は、30年度に向けた教育課程の策定等、重要課題が山積であるが、何よりも生徒の学力伸長と進路実現を必ず図るとの意識を職員全員で共有し、学校を挙げて取り組む。

IV 今年度の重点的取組と数値目標

項目		取組目標と内容	結果	評価
① 学校運営	ア	中高一貫教育校の検証結果を踏まえた教育活動の継承と、都立高校改革推進計画新実施計画による改革案を策定する。	外部有識者を交えた検討委員会や校内かもめPTにより、充実した検討が行われ、3月に改革案がまとまった。	A
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証を実施する。	昨年まで不十分であった年度末検証を文書化し共有できた。	A
	ウ	学年中心主義を改め、各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制を構築する。	分掌・教科を中心とした組織的・系統的な指導体制に舵を切ることはできたが、途上である。	B
	エ	募集・広報活動の充実を図るとともに、円滑な入学選抜等の実施に向けた経営企画室と連携強化する。	中学校訪問の実施や学校説明会の増加、HPの効果的な発信ができた。経営企画室とも連携できた。	A
	オ	全教諭が年間3回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。	他校の授業参観を含め、活発な授業見学を実施することができた。	B
② 学習指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	生徒による授業評価と生徒実態調査の教科単位での分析は不十分であり、次年度の改善目標とする。	C
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進捗の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	教科によっては活発な教科会が実施されたが、東西校舎分離が障害となり、全校的には困難であった。	B
	ウ	小テスト等の実施により、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	各教科とも丁寧な小テストや補講により、基礎・基本の定着を図った。	A
	エ	チューターの有効活用と自習室の充実を図る。	チューターの増加配置と、自習室の7 to 7 対応や環境整備を実施した。	A
	オ	学習習慣の定着化を図るために自宅学習時間の確保を図る。	中学校の学習時間は若干増加した。	B

	カ	英語、漢字、数学などの各種検定に対する年間実施計画を策定する。	学年ごとに異なっていた実施計画を統一的な計画へと変更途上である。	B
	キ	大学等と連携した理数教育の充実を図る。	理科の外部コンテストでの研究発表等を活発に行うことができた。	A
	ク	英語教育推進指定校としての英語教育の一層の充実を図る。 中学校・・・卒業までに英検準2級7割取得 高1・・・GTEC平均520点レベル以上 高2・・・GTEC平均560点レベル以上	オンライン英会話をいち早く実施する等、組織的な指導で成果を挙げた。 中3 英検準2級以上 9割 高1 GTEC平均 520.7 高2 GTEC平均 568.7	A
	ケ	外部セミナー等を活用し各教員の学習指導力の向上とともに、教員相互の授業見学を年間3回以上実施し、学習指導力の向上を図る。	予備校セミナー参加や講師を招いての研修により授業力向上を図った。授業見学も増加した。成果の還元と十分な情報共有については途上である。	B
③ 進路 指導	ア	5教科による勉強合宿を夏季休業日中に実施し、学力の伸長とともに、大学受験に向けた意識の啓発を図る。	勉強合宿を実施すると共に、3学期に0学期の意識喚起やチーム難関の発足を行い、進路意識を高めた。	A
	イ	高校生に関しては自己の学力把握のための実力テストと模擬試験を計画的に実施する。また、中学生に対しては学力推移調査を実施し、学力の定着を図り、その後の指導に繋げる。	中学校の学力推移調査及び高校の実力テスト・模試を計画的に実施できた。その結果と課題の共有は一層進める必要がある。	B
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者高校延べ7,000人以上。中学延べ3,500人以上。	長期休業中の講習参加者 高校 延べ7,090名 中学校 延べ3,453名	A
	エ	国公立大学合格50名以上。	国公立大学47名合格。	B
	オ	難関国立4大学合格者10名以上。	センター試験の上位者は過去最高であったが、2次で及ばなかった。難関国公立大学5名合格。	C
	カ	難関私大合格100名以上。	難関私大合格者81名。層がやや薄く目標を達成できなかった。上位者が推薦に流れる傾向があった。	B
	キ	GMARCH合格150名以上。	GMARCH合格153名。	A
	ク	卒業生を含む学年検討会・センター検討会等を4回以上実施し、生徒一人一人に応じた指導内容の共有化を図り、現役合格率80%を確保。	検討会6回実施。現役合格率85% 計画的に検討会実施したが、情報の共有の範囲と設定時間等に課題が残った。	B
④ 生活 指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等の基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	あいさつの励行に、生徒部を中心に組織的に取り組んだ。改善が見られたが、一層の組織的指導が求められる。	B
	イ	体育祭、文化祭、合唱コンクールなどの行事の充実とともに、実施後の検証を通して工夫・改善を図る。	三人行事の充実を図り、実施後の検証も十分行った。白鷗祭（文化祭）について、次年度改善予定である。	B
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	生徒会を中心に活発な活動ができ、改善についても意欲的であった。	A
	エ	部活動の活性化を図り、中学・高校ともに、都大会等以上の大会出場に3団体以上を目指す。	全国大会に出場を果たした部活動が「百人一首部」「吹奏楽部」「和太鼓部」「中学陸上部」と例年以上に活躍した。	A
	オ	年間皆勤者数、学年平均60名以上。	年間皆勤者数、学年平均59.3名	B
	カ	いじめの実態把握アンケートを3回行い、	いじめの実態把握アンケートを計画的	A

		いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。	に行い、小さな芽を見逃さず、組織的な指導を行い、改善を図った。	
⑤ 募集 広報	ア	校外における説明会や学習塾等への訪問15回以上。	中学校訪問95校、学習塾対象説明会新規実施3回。校外説明会	A
	イ	中学校説明会参加者10,000名以上。	中学説明会参加者10,115名	A
	ウ	中学校入試倍率7.0倍以上。	中学入試倍率6.57倍	B
	エ	高校説明会参加者1,500名以上。	高校説明会参加者1,950名	A
	オ	高校入試倍率1.7倍以上。	高校入試倍率1.61倍	B
	カ	ホームページの充実を図り100回以上の更新を行う。	ホームページの更新137回。内容の充実を図った。	A
⑥ 健康 推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会や生徒理解研修会を実施する。	教育相談委員会を実動化し、相談体制を整備できた。	A
	イ	スクールカウンセラーによる学年全員面接及び個別指導の充実を図る。	全員面接を実施し、相談体制の充実を図ったが、情報共有は一層の改善が求められる。	B
	ウ	健康推進のための講演会を実施する。	専門家による生徒対象講演会を実施し、啓発を図った。	A
⑦ 情報 活用	ア	ICT機器を使った授業を推進する。	他校と比較し、ICTを使用する教員の比率は極めて高い。タブレット端末を総合的な学習の時間で活用できた。	A
	イ	ICT機器を活用した教職員の情報共有化を促進する。	ICT機器操作のスキルは高まっているが、情報共有の活用までには十分至っていない。	B
⑧ 国際 理解 教育	ア	海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実を図る。	現地で活発な交流活動を行った。事前・事後指導には改善の余地がある。	B
	イ	国際社会で活躍する人材を育成するために次世代リーダー育成事業等を活用し留学の推進を図る。	次世代リーダー育成道場に4名合格。今後海外大学への進学を含め、一層の推進を図る。	A
	ウ	姉妹校提携校との交流内容の充実、積極的な留学生の受け入れを行う。	姉妹校からの1週間の受け入れ等の他、米国外交官との交流を実施した。	A
	エ	日本の伝統・文化理解教育を積極的に発信する。	地域と連携した活動をホームページや支援センターのグッドニュースで発信した。	A
	オ	「トランスフォーマ・コネクション」等を活用した、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。	生徒会を中心に大変充実した活動ができた。現地との交流を継続させたい。3年後への基盤ができた。	A
⑨ 経営 企画 室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画を策定する。	適正な予算執行及び計画策定ができたが、行事の実行において具体的かつ緻密な計画を立案する必要がある。	B
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図り、経営参画の充実を図る。	適切に連携し円滑な教育活動が実行できた。経営参画の充実までは余裕がないのが実態である。	B

主な目標項目と数値目標

項目	目 標	対 象	27年度実績	28年度実績	28年度目標
①	自宅学習時間	中学生	1時間40分	1時間48分	2時間
		高校生	2時間11分	2時間30分	2.5時間
②	進路決定	国公立大学・私立難関校 (早・慶・上・理) 進学者数	合格者152名 進学者82名	国公立47名 難関私大81名 GMARCH153名	国公立50名 難関私大100名 GMARCH150名
		難関国公立大学合格者	7名	5名	10名
③	夏期講習 参加者	中学生	延べ3,252名	延べ3,453名	延べ3,500名
		高校生	延べ6,997名	延べ7,090名	延べ7,000名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	平均66名 (1～6年)	平均59.3名 (1～6年)	学年平均60名
⑤	説明会等 参加者	中学校	10,750名	10,115名	10,000名
		高校	1,447名	1,950名	1,500名
⑥	一般入選倍率	中学校	6.81倍	6.57倍	7.0倍
		高校	1.15倍	1.61倍	1.7倍
⑦	英語力向上	中学校		英検準2級以上 9割	卒業までに英検準 2級7割
		高校		高1 GTEC 平均 520.7 高2 平均 568.7	高1 GTEC 平均 520点レベル 高2 GTEC 平均 560点レベル